

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400307		
法人名	医療法人岡本会		
事業所名	グループホーム加田		
所在地	高知県吾川郡いの町加田310番地		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 24 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は国道194号線沿いに位置し、加田地区老人憩いの家、消防屯所、理髪店等が立ち並んでいます。春の沿道には桜並木、裏山は山桜一色で心和ませてくれます。今回の新型コロナウイルスの影響で、御家族との面会は窓越し対応しています。母体法人の病院を協力医とし、連携を大切にして、健康管理、感染症予防対策、食生活管理等を自立支援に活かしていきます。利用者一人ひとりの身体能力、生活等も考慮して、家庭的な雰囲気の中、日常生活に彩りを持たせながら、誰にでも訪れる老いに自然に寄り添ったケアが実施できるよう、日々取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3972400307-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3972400307-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 12 月 16 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方との関係がとても深い施設である。コロナ禍となって職員と一緒に食事ができなくなったし、窓越しの面会となったが、面会ができた頃と大差ない対応に心掛けている。地域の紹介から地域でのバイオリンのコンサートがあり、「近いので、コンサートいかがですか」と声がかかったが、残念ながらお断りした分、施設内で、利用者が喜んで頂くことを工夫する対応を考察している。食に関しても、季節感を取り入れ、笑顔を忘れず、職員の家で何があっても持ち込まないように対応している。冬の朝早く、外から入ると、あえて手を触り、冷たさを感じて頂き、「外は冷たいよ」と伝えながらスキンシップを深めている。職員自身が、嫌なことはせず、自分が入りたい施設に、そしてその人らしい施設になるよう叶えていきたいという気持ちに強くこだわっている。近所の方が、1歳の子を連れてきて、ドアノックの連絡をしてくれ、利用者との挨拶で利用者も元気を頂き、平屋で南向き、散歩がし易く運動会もできる広い敷地なので、近所の子どもがいつも遊びに来てくれ、野球、サッカー、バドミントンや自転車乗りをして、利用者の目を楽しませてくれ、大いに生活に変化を与えていることで笑顔を呼ぶ一つとなっている。吊るし柿を作った事もあり、職員が、「おいしそうな吊るし柿ができたね。」と発したら「あれは揉まないといけないよ」と、利用者からの指示があった。また、全盲の方も一緒にドライブした時に、春には桜の花びら、秋には紅葉に触れて頂いて季節の感性を高める心配りや鳥のさえずりが聞こえると、「今は何の鳥のさえずり？」と尋ねると、「〇〇の鳥」と返答があり、生き字引の利用者が多く、そんな仲が良い家庭そのもので、レクも愉しく参加してワイワイと賑やかなりピングとなり、笑い声が施設内に絶え間なくこだまっていた。利用者から学ぶ場も職員は喜びとなり、一日一日経つ度に共同生活の醍醐味を味わえる施設となっていた。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から基本理念を職員全体で共有し、ケアの実施に努めている。理念は玄関ホール、各ユニット管理室に掲示して周知しています。	理念は玄関と各ユニットの事務スペース・相談室に掲示していて、朝の申し送り時に唱和をしている。毎月の職員会議で理念に書かれた内容を噛み砕き、ケアに反映しているかを振り返り、職員全員が同じ方向を向いている。	理念が外部の人にも伝わるようにしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の流行前は、事業所の敷地を開放して地域に利用してもらっているほか、地区の自主防災訓練にも参加していました。また近隣住民が野菜や花を持ってきてくださったり、日常的な交流ができていました。	地区の行事は案内が届き、防災訓練や溝掃除に参加している。休みの日は、近隣の子供が駐車場でサッカーやキャッチボールなどの遊び場となっている。子供が近くを通った時は窓をノックして、挨拶も交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の散歩の際には地域住民と挨拶を交わして積極的に交流を図ることで、自然と会話が生まれ、理解を深めている。地域住民から相談があれば助言をして、支援に努めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の為、現在は報告書を郵送にてお知らせしています。行事の報告や利用者の入所、退所状況、ヒアリング報告、職員の研修参加報告、活動状況を細かく報告し、サービス内容や運営方法について意見や助言を頂けるようアンケート用紙を同封しています。	コロナ禍のため、会議は書面とアンケートを郵送して意見交換をしている。町職員や地域の人、家族が委員となっていて、「コロナ禍で職員さんは大変でしょうが頑張ってください。」と元気がもらえる言葉も届いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員と年に数回情報交換や勉強会を行っている。町開催の研修会にも参加し、必要に応じて相談助言を得ている。毎月事業所便りを送付して、状況報告をしています。	行政への窓口は、両ユニットの管理者が行っていて、何でも相談が出来る関係が出来ている。地域包括支援センターが主催している勉強会では、事業所間で事例報告を行い、情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人内施設合同での身体拘束擁護委員会開催、内外研修への参加や、身体拘束ゼロの手引きを用いて朝の会で身体拘束をしないケアについて職員に周知徹底し、身体拘束廃止に取り組んでいます。	法人内の事業所が集まり、身体拘束委員会を立ち上げ、3か月に1回の勉強会をしている。勉強会の内容は、各事業所に持ち帰り職員への周知をしている。スピーチロックについても意見交換し、言葉による抑制が起きない取り組みをしている。	身体拘束について、職員が楽しく参加できる取り組みをしてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、内外の研修会や勉強会への参加を通じて高齢者虐待について学習し、職員同士のコミュニケーションを図って、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で職員は各自知識の習得に努めている。制度利用が必要な時は、利用者への支援や助言を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者ご家族には、入所前に重要事項及び契約内容の説明をして、理解と納得が得られるよう努めている。疑問点にはその都度説明を行い、理解してもらえるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時や買い物中に会ったりした時にこちらから声をかけ、利用者の近況を伝え、十分にコミュニケーションを図って、信頼関係の構築に努めており、要望や意見は必ず職員間で伝達し、検討しています。	家族へは、毎月お便りを作り最近の様子を伝えている。状況によっては手紙や電話で、個別に状況を報告している。『身内の間でお便りの表情を見て、「楽しそうにしている、良い所に入れて良かったね。」と話したんよ。』との嬉しいお知らせもあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や日常における職員の声や思いを聞き取る事を含め、意見交換の場を設け、情報の共有を図り、できる事から運営に反映しています。	毎月の職員会議で職員の意見や要望を聞き取っている。主任には、何でも言いやすくゲートキーパー役となり、職員一人ひとりの思いが把握できている。「倉庫の扉が重くて開け閉めしにくい。」と職員の意見があり、倉庫の買い替えが実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長所や能力を活かし、自信を持って働けるよう努めている。また、各職員の家庭状況等を考慮し、シフトの調整をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が内外の研修に可能な限り参加できるように配慮し、職員の資質向上に努めると共に、各資格の取得支援も積極的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所職員とは、研修会や勉強会を通じて情報交換を行っており、職員一人ひとりの知識の向上や事業所運営の向上に活かしています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりの身体状況や性格、生活歴等、多くの情報収集に努めると共に、傾聴を心がけ、ご本人の要望等を聞きながら、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、入所前や入所当日にゆっくりと話しをする機会を設け、要望や不安を聞き、いつでも気軽に相談できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの身体状況、性格、生活歴、病歴等、できるだけ多くの情報を収集し、ご本人、ご家族の要望を聞きながら、適切なサービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とは、日常の様々な場面で、昔から受け継がれてきた生活の知恵的なアドバイスをいただいたり、家事などを一緒に行うことで、共に支えあう関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所便りを毎月ご家族に送付し、利用者の暮らしぶりを伝え、窓越し面会時には元気なお姿をみていただけるよう支援し、ともにご本人を支え合っていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者一人ひとりの今までの生活歴や交友関係が継続できるよう、要望を聞きながら支援に努めている。コロナ禍以前は、面会はいつでも可能であり、面会時は自室でゆっくりと一緒に寛げるよう配慮していました。	かかりつけ医と顔なじみの関係となっていて、リビングの壁面に利用者の写真と一緒にかかりつけ医の写真も顔を揃えていた。利用者同士もお互いの顔を見ると自然と笑顔がこぼれる関係となっている。寒い時期はフロアのソファ、春には玄関先のベンチでの日向ぼっこが、利用者にとって落ち着く場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が自由に行き来したり、居室で一緒に過ごしたりできるよう、支援している。また、食卓の配席も考慮し、より良い関係作りができるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはご本人、ご家族、主治医を交えて相談、検討し、要望を聞いて、納得のいく退所としている。退所後も必要に応じて可能な限り相談等を受ける等、継続して関わりを持つようになっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や要望を十分に聞き、人格やプライドに配慮すると共に、今までの生活等も考慮して、一人ひとりに合った支援に努めています。	利用者との日常の会話から意向をくみ取り、趣味や生活歴を活かしたケアへつなげている。お風呂の時間を使ったり、居室でお茶を飲んだりしてマンツーマンの時間を作って、意向を話しやすい環境を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や生活状況を多方面に情報収集し、それらを職員は情報共有して、サービスの提供に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムや身体能力、体調を日々観察し、把握すると共に、職員ミーティングでのアセスメントを行い、職員全員で情報共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族には日常的に要望を聞き、医師等の助言も得ながら、職員ミーティングで検討し、介護計画に反映しています。	新規入所時に暫定プランを作成し、2週間～1か月で本プランに切り替えている。その後は、3か月ごとにカンファレンスを開き、モニタリングをして、プランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日常生活、身体状況、介護の実践状況等をファイルに記載し、情報を共有して、実践につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族とその都度相談を行いながら、利用者からのニーズに対して、職員だけではなく、ご家族や主治医等にも相談し、必要なサービスが提供できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の個々の能力に応じて、地域資源を活用できるように、地域住民や他機関に事業所への理解と協力をお願いし、支援を行っていました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人が運営する病院の医師をかかりつけ医とし、2週間毎に往診がある。日頃から体調の把握に努めており、健康管理を行っている。専門医への受診時には、協力医からの情報提供を得て、送迎等可能な限りの受診支援を行っています。	受診の対応は、出来る限り職員が対応している。家族が対応するときは、病院からの情報を聞き、共有している。入院時など事業所内での様子を伝える時は、直接電話で報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による訪問看護があり、バイタルのほか、利用者個々の状態、日々の様子を伝え、助言やアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と連携し、ご本人ご家族の意向を聞いて支援に努めている。必要に応じて送迎や受診の介助を行い、入院時は情報提供票で情報共有を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者重度化時の対応については、必要に応じて主治医を交えて説明し、理解を得ると共に、可能な限り要望に沿った支援の提供を心がけている。必要に応じ見取りに関する指針の説明も行っています。	重度化や見取りについての研修も実施し、受け入れ態勢は整っている。職員に看護師がいて、医療的なケアを受ける事も出来る。母体病院があるため、状態に合わせた対応も可能なので、家族の安心も得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修会を受講したり、マニュアルの勉強会を行ったりして、緊急時に対応できるよう備えている。AEDを設置し、使用方法を定期的に確認して、緊急時に使用できるよう取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害時研修会を受講し、年2回の事業所防災訓練を行っており、地域の方々と共に災害時のマニュアルを作成し、双方で共有し地域として協力できるよう話しをしています。	以前に浸水した地域のため、地域全体の防災訓練を実施している。年2回の防災訓練では経験を活かした訓練が出来ている。災害時は、母体病院や地域を巻き込んだ受け入れ要請をしている。3日分のごはんや飲料水やヘルメットが準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や身体状況の把握に努め、プライバシーに配慮した声かけや介助を心がけて、人格を尊重した支援に努めています。	トイレに誘うときは、他の利用者に気付かれないよう声のボリュームを調整している。失敗された時も、羞恥心に配慮して、他利用者に知られない隠語を使うこともある。呼称は、本人や家族の意向に合わせた呼び方にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で本人の要望を聞き、自己決定できるように支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活できるよう配慮している。また、年間行事がある時は、楽しさを抱いてもらえるように、事前にお話しをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事への参加の時などは、ご本人の意向を聞きながら、洋服選びと身だしなみを整える支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり、利用者一人ひとりの好き嫌い、アレルギーに配慮したメニューを心がけている。ゆったりと食事をとっていただけるよう、穏やかな雰囲気作りに努めています。また、利用者には、野菜の下処理やテーブル拭き等していただいています。	食事は、近隣の人から旬の食材が届くこともあり、季節に合わせた食事が提供されている。利用者が調理をする機会があり、秋には干し柿づくりに精を出していた。食事の姿勢が整うように体形に合わせた足置きが準備されている。利用者のリクエストに応じてちらし寿司を作り、柚子の香りが食欲を倍増させていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの身体状況や好みに合わせて、食事の盛り付け、形状、量に配慮しており、器、スプーン等残存能力に合わせた物を使用できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの歯や、口腔内の状態を把握し、自分で口腔ケアができない利用者には、毎食後職員が行い、チェックしている。必要に応じて歯科診療も受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、利用者の能力に合わせた支援に努めている。排泄介助や誘導時には、尊厳を損なうことがないよう、さりげない声かけ等の配慮をしています。	排泄用品の値上がりもあり、トイレ誘導の回数を増やしたり、パットのサイズを小さくしたりとパットの費用を減らす工夫をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンや排泄のサインを共有して、利用者が快適に過ごせる環境を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便状態を把握し、食事、水分の摂取量を工夫し、日々の運動を日常的に行って、便秘予防に努めている。主治医の助言を受け、適切な薬の処方してもらって対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が支援できる体制にあり、利用者の要望に沿った入浴支援を行っている。入浴ができない利用者には、足浴や清拭を実施しています。	利用者が入浴したくない時は、職員も裾をまくって肌を出し、肌を見せ合うことで気持ちの変わる工夫もしている。「昔、シャワーのお湯が顔にかかるのが嫌だった。」と利用者が本音を語ったことで、不安なく入浴が出来るようになったケースもある。利用者は最低でも3日に1回は入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンに合わせて生活リズムを作り、良眠できるように支援を行っている。利用者が安心して休養できるよう、居室の環境作りにも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルに綴じ、いつでも確認ができるようにして、利用者一人ひとりの能力に合わせた服薬介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下処理、洗濯たたみ、テーブル拭き、体操時の号令等、利用者一人ひとりの能力に合わせた役割作りを行っている。また、個々の趣味や好きなことを職員は把握し、共有して支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り利用者の要望に沿った支援を行うと共に、ご家族にも協力してもらい、外出や外泊ができるようにしている。コロナ時期以前は外出する機会作りをしていました。	事業所の敷地も広く、殆ど毎日、外の空気に触れる時間を設けている。春の桜や秋の紅葉狩りなど、人混みを避けた外出をしている。敷地内にも木々が多く、ベンチも置かれていて、気軽に気分転換をすることが出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が日常的に金銭管理をすることは難しいので、欲しい物がある時は、ご家族よりお預かりしたお金で職員が代行しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話をかける支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には観葉植物や季節の花を生け、明るく、安心できる空間作りに努めると共に、気温や気候に配慮しながら、光や温度調節を行っている。玄関ホールでは、季節が感じられる雰囲気作りを心がけています。	リビングには各自のお気に入りの場所があり、ソファで寛がれる利用者もいた。小柄な利用者には、廃校からもらった勉強机を活用し、食事を摂りやすくしていた。天窓からの採光もあり、建物の中においても自然の温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が自由に寛げる場として、事業所内の数ヶ所にソファや椅子を配置しており、職員は遠巻きに見守り、利用者の安全確保にも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人の馴染みの物を持って来てもらい、混乱しないように配慮しており、利用者一人ひとりの好みに合わせた居室作りに努め、より良い生活ができるように支援しています。	各居室にトイレが設置されていて、他利用者の目を気にせず排泄することが出来る。自宅から机を持ち込まれ、書斎を作っている居室もあった。家族の写真や作品が壁に飾られていて、落ち着いた空間を醸し出していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置、案内表示、自室の目印、手すり、滑り止めマット等を必要に応じて設置し、利用者の生活の混乱を最小限に止める工夫をしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400307		
法人名	医療法人岡本会		
事業所名	グループホーム加田		
所在地	高知県吾川郡いの町加田310番地		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 24 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は国道194号線沿いに位置し、加田地区老人憩いの家、消防屯所、理髪店等が立ち並んでいます。春の沿道には桜並木、裏山は山桜一色で心和ませてくれます。今回の新型コロナウイルスの影響で、御家族との面会は窓越し対応しています。母体法人の病院を協力医とし、連携を大切にして、健康管理、感染症予防対策、食生活管理等を自立支援に活かしていきます。利用者一人ひとりの身体能力、生活等も考慮して、家庭的な雰囲気の中、日常生活に彩りを持たせながら、誰にでも訪れる老いに自然に寄り添ったケアが実施できるよう、日々取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3972400307-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3972400307-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 12 月 16 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方との関係がとても深い施設である。コロナ禍となって職員と一緒に食事ができなくなったし、窓越しの面会となったが、面会ができた頃と大差ない対応に心掛けている。地域の紹介から地域でのバイオリンのコンサートがあり、「近いので、コンサートいかがですか」と声がかかったが、残念ながらお断りした分、施設内で、利用者が喜んで頂くことを工夫する対応を考察している。食に関しても、季節感を取り入れ、笑顔を忘れず、職員の家で何があっても持ち込まないように対応している。冬の朝早く、外から入ると、あえて手を触り、冷たさを感じて頂き、「外は冷たいよ」と伝えながらスキンシップを深めている。職員自身が、嫌なことはせず、自分が入りたい施設に、そしてその人らしい施設になるよう叶えていきたいという気持ちに強くこだわっている。近所の方が、1歳の子を連れてきて、ドアノックの連絡をしてくれ、利用者と子どもの挨拶で利用者も元気を頂き、平屋で南向き、散歩がし易く運動会もできる広い敷地なので、近所の子どもがいつも遊びに来てくれ、野球、サッカー、バドミントンや自転車乗りをして、利用者の目を楽しませてくれ、大いに生活に変化を与えていることで笑顔を呼ぶ一つとなっている。吊るし柿を作った事もあり、職員が、「おいしいそうな吊るし柿ができたね。」と発したら「あれは揉まないといけないよ」と、利用者からの指示があった。また、全盲の方も一緒にドライブした時に、春には桜の花びら、秋には紅葉に触れて頂いて季節の感性を高める心配りや鳥のさえずりが聞こえると、「今は何の鳥のさえずり？」と尋ねると、「〇〇の鳥」と返答があり、生き字引の利用者が多く、そんな仲が良い家庭そのもので、レクも愉しく参加してワイワイと賑やかなりピングとなり、笑い声が施設内に絶え間なくこだまっていた。利用者から学ぶ場も職員は喜びとなり、一日一日経つ度に共同生活の醍醐味を味わえる施設となっていた。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から基本理念を職員全体で共有し、ケアの実施に努めている。理念は玄関ホール、各ユニット管理室に掲示して周知しています。	理念は玄関と各ユニットの事務スペース・相談室に掲示していて、朝の申し送り時に唱和をしている。毎月の職員会議で理念に書かれた内容を噛み砕き、ケアに反映しているかを振り返り、職員全員が同じ方向を向いている。	理念が外部の人にも伝わるようにしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の流行前は、事業所の敷地を開放して地域に利用してもらっているほか、地区の自主防災訓練にも参加していました。また近隣住民が野菜や花を持ってきてくださったり、日常的な交流ができていました。	地区の行事は案内が届き、防災訓練や溝掃除に参加している。休みの日は、近隣の子供が駐車場でサッカーやキャッチボールなどの遊び場となっている。子供が近くを通った時は窓をノックして、挨拶も交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の散歩の際には地域住民と挨拶を交わして積極的に交流を図ることで、自然と会話が生まれ、理解を深めている。地域住民から相談があれば助言をして、支援に努めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の為、現在は報告書を郵送にてお知らせしています。行事の報告や利用者の入所、退所状況、ヒアリング報告、職員の研修参加報告、活動状況を細かく報告し、サービス内容や運営方法について意見や助言を頂けるようアンケート用紙を同封しています。	コロナ禍のため、会議は書面とアンケートを郵送して意見交換をしている。町職員や地域の人、家族が委員となっていて、「コロナ禍で職員さんは大変でしょうが頑張ってください。」と元気がもらえる言葉も届いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員と年に数回情報交換や勉強会を行っている。町開催の研修会にも参加し、必要に応じて相談助言を得ている。毎月事業所便りを送付して、状況報告をしています。	行政への窓口は、両ユニットの管理者が行っていて、何でも相談が出来る関係が出来ている。地域包括支援センターが主催している勉強会では、事業所間で事例報告を行い、情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人内施設合同での身体拘束擁護委員会開催、内外研修への参加や、身体拘束ゼロの手引きを用いて朝の会で身体拘束をしないケアについて職員に周知徹底し、身体拘束廃止に取り組んでいます。	法人内の事業所が集まり、身体拘束委員会を立ち上げ、3か月に1回の勉強会をしている。勉強会の内容は、各事業所に持ち帰り職員への周知をしている。スピーチロックについても意見交換し、言葉による抑制が起きない取り組みをしている。	身体拘束について、職員が楽しく参加できる取り組みをしてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、内外の研修会や勉強会への参加を通じて高齢者虐待について学習し、職員同士のコミュニケーションを図って、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で職員は各自知識の習得に努めている。制度利用が必要な時は、利用者への支援や助言を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者ご家族には、入所前に重要事項及び契約内容の説明をして、理解と納得が得られるよう努めている。疑問点にはその都度説明を行い、理解してもらえるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時や買い物中に会ったりした時にこちらから声をかけ、利用者の近況を伝え、十分にコミュニケーションを図って、信頼関係の構築に努めており、要望や意見は必ず職員間で伝達し、検討しています。	家族へは、毎月お便りを作り最近の様子を伝えている。状況によっては手紙や電話で、個別に状況を報告している。『身内の間でお便りの表情を見て、「楽しそうにしている、良い所に入れて良かったね。」と話したんよ。』との嬉しいお知らせもあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や日常における職員の声や思いを聞き取る事を含め、意見交換の場を設け、情報の共有を図り、できる事から運営に反映しています。	毎月の職員会議で職員の意見や要望を聞き取っている。主任には、何でも言いやすくゲートキーパー役となり、職員一人ひとりの思いが把握できている。「倉庫の扉が重くて開け閉めしにくい。」と職員の意見があり、倉庫の買い替えが実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長所や能力を活かし、自信を持って働けるよう努めている。また、各職員の家庭状況等を考慮し、シフトの調整をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が内外の研修に可能な限り参加できるように配慮し、職員の資質向上に努めると共に、各資格の取得支援も積極的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所職員とは、研修会や勉強会を通じて情報交換を行っており、職員一人ひとりの知識の向上や事業所運営の向上に活かしています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりの身体状況や性格、生活歴等、多くの情報収集に努めると共に、傾聴を心がけ、ご本人の要望等を聞きながら、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、入所前や入所当日にゆっくりと話しをする機会を設け、要望や不安を聞き、いつでも気軽に相談できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの身体状況、性格、生活歴、病歴等、できるだけ多くの情報を収集し、ご本人、ご家族の要望を聞きながら、適切なサービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とは、日常の様々な場面で、昔から受け継がれてきた生活の知恵的なアドバイスをいただいたり、家事などを一緒に行うことで、共に支えあう関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所便りを毎月ご家族に送付し、利用者の暮らしぶりを伝え、窓越し面会時には元気なお姿をみていただけるよう支援し、ともにご本人を支え合っていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者一人ひとりの今までの生活歴や交友関係が継続できるよう、要望を聞きながら支援に努めている。コロナ禍以前は、面会はいつでも可能であり、面会時は自室でゆっくりと一緒に寛げるよう配慮していました。	かかりつけ医と顔なじみの関係となっていて、リビングの壁面に利用者の写真と一緒にかかりつけ医の写真も顔を揃えていた。利用者同士もお互いの顔を見ると自然と笑顔がこぼれる関係となっている。寒い時期はフロアのソファ、春には玄関先のベンチでの日向ぼっこが、利用者にとって落ち着く場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が自由に行き来したり、居室で一緒に過ごしたりできるよう、支援している。また、食卓の配席も考慮し、より良い関係作りができるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはご本人、ご家族、主治医を交えて相談、検討し、要望を聞いて、納得のいく退所としている。退所後も必要に応じて可能な限り相談等を受ける等、継続して関わりを持つようになっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や要望を十分に聞き、人格やプライドに配慮すると共に、今までの生活等も考慮して、一人ひとりに合った支援に努めています。	利用者との日常の会話から意向をくみ取り、趣味や生活歴を活かしたケアへつなげている。お風呂の時間を使ったり、居室でお茶を飲んだりしてマンツーマンの時間を作って、意向を話しやすい環境を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や生活状況を多方面に情報収集し、それらを職員は情報共有して、サービスの提供に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムや身体能力、体調を日々観察し、把握すると共に、職員ミーティングでのアセスメントを行い、職員全員で情報共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族には日常的に要望を聞き、医師等の助言も得ながら、職員ミーティングで検討し、介護計画に反映しています。	新規入所時に暫定プランを作成し、2週間～1か月で本プランに切り替えている。その後は、3か月ごとにカンファレンスを開き、モニタリングをして、プランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日常生活、身体状況、介護の実践状況等をファイルに記載し、情報を共有して、実践につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族とその都度相談を行いながら、利用者からのニーズに対して、職員だけではなく、ご家族や主治医等にも相談し、必要なサービスが提供できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の個々の能力に応じて、地域資源を活用できるように、地域住民や他機関に事業所への理解と協力をお願いし、支援を行っていました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人が運営する病院の医師をかかりつけ医とし、2週間毎に往診がある。日頃から体調の把握に努めており、健康管理を行っている。専門医への受診時には、協力医からの情報提供を得て、送迎等可能な限りの受診支援を行っています。	受診の対応は、出来る限り職員が対応している。家族が対応するときは、病院からの情報を聞き、共有している。入院時など事業所内での様子を伝える時は、直接電話で報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による訪問看護があり、バイタルのほか、利用者個々の状態、日々の様子を伝え、助言やアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と連携し、ご本人ご家族の意向を聞いて支援に努めている。必要に応じて送迎や受診の介助を行い、入院時は情報提供票で情報共有を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者重度化時の対応については、必要に応じて主治医を交えて説明し、理解を得ると共に、可能な限り要望に沿った支援の提供を心がけている。必要に応じ見取りに関する指針の説明も行っています。	重度化や見取りについての研修も実施し、受け入れ態勢は整っている。職員に看護師がいて、医療的なケアを受ける事も出来る。母体病院があるため、状態に合わせた対応も可能なので、家族の安心も得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修会を受講したり、マニュアルの勉強会を行ったりして、緊急時に対応できるよう備えている。AEDを設置し、使用方法を定期的に確認して、緊急時に使用できるよう取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害時研修会を受講し、年2回の事業所防災訓練を行っており、地域の方々と共に災害時のマニュアルを作成し、双方で共有し地域として協力できるよう話しをしています。	以前に浸水した地域のため、地域全体の防災訓練を実施している。年2回の防災訓練では経験を活かした訓練が出来ている。災害時は、母体病院や地域を巻き込んだ受け入れ要請をしている。3日分のごはんや飲料水やヘルメットが準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や身体状況の把握に努め、プライバシーに配慮した声かけや介助を心がけて、人格を尊重した支援に努めています。	トイレに誘うときは、他の利用者に気付かれないよう声のボリュームを調整している。失敗された時も、羞恥心に配慮して、他利用者に知られない隠語を使うこともある。呼称は、本人や家族の意向に合わせた呼び方にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で本人の要望を聞き、自己決定できるように支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活できるよう配慮している。また、年間行事がある時は、楽しさを抱いてもらえるように、事前にお話しをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事への参加の時などは、ご本人の意向を聞きながら、洋服選びと身だしなみを整える支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり、利用者一人ひとりの好き嫌いや、アレルギーに配慮したメニューを心がけている。ゆったりと食事をとっていただけるよう、穏やかな雰囲気作りに努めています。また、利用者には、野菜の下処理やテーブル拭き等していただいています。	食事は、近隣の人から旬の食材が届くこともあり、季節に合わせた食事が提供されている。利用者が調理をする機会があり、秋には干し柿づくりに精を出していた。食事の姿勢が整うように体形に合わせた足置きが準備されている。利用者のリクエストに応じてちらし寿司を作り、柚子の香りが食欲を倍増させていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの身体状況や好みに合わせて、食事の盛り付け、形状、量に配慮しており、器、スプーン等残存能力に合わせた物を使用できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの歯や、口腔内の状態を把握し、自分で口腔ケアができない利用者には、毎食後職員が行い、チェックしている。必要に応じて歯科診療も受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、利用者の能力に合わせた支援に努めている。排泄介助や誘導時には、尊厳を損なうことがないよう、さりげない声かけ等の配慮をしています。	排泄用品の値上がりもあり、トイレ誘導の回数を増やしたり、パットのサイズを小さくしたりとパットの費用を減らす工夫をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンや排泄のサインを共有して、利用者が快適に過ごせる環境を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便状態を把握し、食事、水分の摂取量を工夫し、日々の運動を日常的に行って、便秘予防に努めている。主治医の助言を受け、適切な薬の処方してもらって対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が支援できる体制にあり、利用者の要望に沿った入浴支援を行っている。入浴ができない利用者には、足浴や清拭を実施しています。	利用者が入浴したくない時は、職員も裾をまくって肌を出し、肌を見せ合うことで気持ちの変わる工夫もしている。「昔、シャワーのお湯が顔にかかるのが嫌だった。」と利用者が本音を語ったことで、不安なく入浴が出来るようになったケースもある。利用者は最低でも3日に1回は入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンに合わせて生活リズムを作り、良眠できるように支援を行っている。利用者が安心して休養できるよう、居室の環境作りにも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルに綴じ、いつでも確認ができるようにして、利用者一人ひとりの能力に合わせた服薬介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下処理、洗濯たたみ、テーブル拭き、体操時の号令等、利用者一人ひとりの能力に合わせた役割作りを行っている。また、個々の趣味や好きなことを職員は把握し、共有して支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り利用者の要望に沿った支援を行うと共に、ご家族にも協力してもらい、外出や外泊ができるようにしている。コロナ時期以前は外出する機会作りをしていました。	事業所の敷地も広く、殆ど毎日、外の空気に触れる時間を設けている。春の桜や秋の紅葉狩りなど、人混みを避けた外出をしている。敷地内にも木々が多く、ベンチも置かれていて、気軽に気分転換をすることが出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が日常的に金銭管理をすることは難しいので、欲しい物がある時は、ご家族よりお預かりしたお金で職員が代行しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話をかける支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には観葉植物や季節の花を生け、明るく、安心できる空間作りに努めると共に、気温や気候に配慮しながら、光や温度調節を行っている。玄関ホールでは、季節が感じられる雰囲気作りを心がけています。	リビングには各自のお気に入りの場所があり、ソファで寛がれる利用者もいた。小柄な利用者には、廃校からもらった勉強机を活用し、食事を摂りやすくしていた。天窓からの採光もあり、建物の中においても自然の温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が自由に寛げる場として、事業所内の数ヶ所にソファや椅子を配置しており、職員は遠巻きに見守り、利用者の安全確保にも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人の馴染みの物を持って来てもらい、混乱しないように配慮しており、利用者一人ひとりの好みに合わせた居室作りに努め、より良い生活ができるように支援しています。	各居室にトイレが設置されていて、他利用者の目を気にせず排泄することが出来る。自宅から机を持ち込まれ、書斎を作っている居室もあった。家族の写真や作品が壁に飾られていて、落ち着いた空間を醸し出していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置、案内表示、自室の目印、手すり、滑り止めマット等を必要に応じて設置し、利用者の生活の混乱を最小限に止める工夫をしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				